

令和3年度 大田区立馬込第二小学校 自己評価

○ 本校の概要

本校は、児童数445名（令和3年4月1日現在）、通常学級14学級、特別支援学級（若竹学級）2学級の中規模の小学校である。環状七号線の外側に少し入った閑静な住宅地の中に学校がある。保護者や地域の方は学校に協力的であり、温かい雰囲気の中で支えられて学校教育すすめることができている。今年度は、教育目標の重点目標を「心豊かで思いやりのある子」として、教育活動をすすめている。昨年度より、プログラミング的思考を主眼とした研究をしてきた成果を引き継ぎ、「考えよう やってみよう 伝え合おう」を研究主題として横断的に各教科を通しての研究をすすめている。教員一人ひとりがICT機器を効果的に活用できる資質の向上が必要であると考え研究の副主題として「ICT機器を効果的に活用した指導法の工夫」と設定して普段の授業実践につながる研究をすすめていくこととした。2021年実施する東京オリンピック・パラリンピックを受けて児童一人ひとりが、海外に目を向ける日本人として自国と他国の文化を尊重する教育の推進を図っていく。そして、学校支援地域本部の協力を仰ぎ、緑のボランティア、こまクラブの読み聞かせなど学校の内外において地域との密接な関係をこれまで以上に築き、児童（保護者）・地域・学校が生き生きと過ごすことができる環境作りをめざしていく。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	目標に対する成果指標	
プランナー 未来社会を創造的に生きる子供の育成	付しと けなも まやに すか生 。にき 対るケ す等シ る、ヨ 子こん どれ能 もか力 のら、 力の情 と社報 自会活 信の用 を変能 身化力 に、	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々のコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：85%以上が回答した。 2：70%以上が回答した。 1：70%未満であった。	き と自 分 生 活 に 自 信 い を も ち 、 答 え た こ れ か ら の 割 合 の 社 会 に 生 き 生	
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おたのみのづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4：全教員が行った。 3：80%以上の教員が行った。 2：60%以上の教員が行った。 1：60%未満であった。		4：90%以上
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4：設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3：90%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2：75%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1：75%未満であった。		3：80%以上 90%未満
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：90%以上で行った。 2：75%以上で行った。 1：75%未満であった。		2：60%以上 80%未満
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4：全教員で行った。 3：80%以上の教員で行った。 2：60%以上の教員で行った。 1：60%未満であった。		1：60%未満
		自ら考え、その考えを発信するための情報を学習や経験、体験から得られる授業を実施する。	4：全教員で行った。		
			3：90%以上の教員で行った。		
			2：75%以上の教員で行った。		
			1：75%未満であった。		

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	目標に対する成果指標	
プラン2 学力の向上	め、児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高める。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4：対象となる全学級（全教員）で行った。 3：85%以上で行った。 2：70%以上で行った。 1：70%未満であった。	容 を 取 組 理 解 し 価 値 の い 「 4 」 と 答 え た 割 合 、 児 童 が 授 業 内	
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4：学期に2～3回知らせた。 3：学期毎に知らせた。 2：年度間に1回は知らせた。 1：お知らせできなかった。		4：取組評価の「4」が4つ以上で、児童の理解の割合が95%以上
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4：対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3：90%以上の教員が働きかけた。 2：75%以上の教員が働きかけた。 1：75%未満の教員が働きかけた。		3：取組評価の「4」が3つ以上で、児童の理解の割合が80%以上95%未満
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：85%以上が回答した。 2：70%以上が回答した。 1：70%未満であった。		2：取組評価の「4」があり、児童の理解の割合が60%以上80%未満
		知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成、学びに向かう力等を身に付けるための指導計画を立て、児童の意欲を高める授業づくりをする。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：90%以上が回答した。 2：75%以上が回答した。 1：75%未満であった。		1：児童が授業内容を理解していると答えた割合が60%未満

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	目標に対する成果指標	
プラン4 体力の向上と健康の増進	増着進にス をよポ 図るー る体ツ 意カに 識の親 の向し 向上む 向上な をど、 をめ、 生成や 生涯、 に運 た動 っ習 て慣 健の 康定	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4：全教員で行った。 3：90%以上の教員で行った。 2：75%以上の教員で行った。 1：75%未満であった。	な回運 答動 をを したし たり 見り 童体 のを 割動 合か した りす るこ とに 肯 定 的	4：90%以上
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4：全教員で行った。 3：90%以上の教員で行った。 2：75%以上の教員で行った。 1：75%未満であった。		3：80%以上 90%未満
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4：全教員で行った。 3：90%以上の教員で行った。 2：75%以上の教員で行った。 1：75%未満であった。		2：70%以上 80%未満
		春と秋の年2回、新体力テスト（一部または、全部）を実施し、児童自ら、自己の体力を高めようとな取組をする。	4：全教員が取り組んだ。 3：80%以上の教員が取り組んだ。 2：60%以上の教員が取り組んだ。 1：60%未満であった。		1：70%未満

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	目標に対する成果指標	
プラン5 魅力ある教育環境づくり	まに、児童・生徒の指導力向上・安心に学校生活を送るため す。教員の生徒が安全・良質な教育環境をつくるため	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上の教員が回答した。 2：60%以上の教員が回答した。 1：60%未満であった。	「一般に保護者の満足度」を「馬蹄第二小学校の教育全般」について	4：90%以上
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4：学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3：学期に1回（年間3回）以上行った。 2：年度間に1回以上行った。 1：実施しなかった。		3：75%以上 90%未満
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：85%以上の教員が回答した。 2：70%以上の教員が回答した。 1：70%未満であった。		2：60%以上 75%未満
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4：月1回以上行った。 3：学期に2～3回行った。 2：学期1回以上行った。 1：実施しなかった。		1：60%未満
		自己の教育力向上のための自主的な研修を実施・参加・助言等様々な立場で行う。	4：月1回以上行った。 3：学期に2～3回行った。 2：学期1回以上行った。 1：実施しなかった。		1：60%未満

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	目標に対する成果指標	
プラン6 一体学校・家庭・地域が進める教育	地域学校・家庭・地域の連携を深め、子どもが担う役割を割り当て、役割を担う子どもが現れる仕組みを明確に作り、相互の連携を深め、子どもが担う役割を割り当て、役割を担う子どもが現れる仕組みを明確に作り、	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4：月1回以上更新した。 3：学期に2～3回更新した。 2：学期1回以上更新した。 1：更新しなかった。	「保護者のアンケート」項目における学校は必要な意見の割合を提供し	4：90%以上
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4：毎回情報を提供した。 3：おおむね情報を提供した。 2：あまり情報を提供しなかった。 1：情報を提供しなかった。		3：75%以上 90%未満
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4：学期に2～3回行った。 3：学期1回以上行った 2：年1回以上行った。 1：実施しなかった。		2：60%以上 75%未満
		保護者/地域の読み聞かせボランティアサークル「こまクラブ」と連携し、児童の読書活動を推進する。保護者/地域の読み聞かせボランティアサークル「こまクラブ」と連携し、児童の読書活動を推進	4：学期に2～3回行った。 3：学期1回以上行った 2：年1回以上行った。 1：実施しなかった。		1：60%未満
		馬ニスタンダード（学習面ならびに生活面）をもとに家庭への連携を啓発し習慣化を図る。	4：学期に2～3回行った。 3：学期1回以上行った 2：年1回以上行った。 1：実施しなかった。		
		オリンピック・パラリンピック教育の推進のための授業や地域の人材を活用して出前授業、参加型公開講座を開催する。	4：学期に2～3回行った。 3：学期1回以上行った 2：年1回以上行った。 1：実施しなかった。		